

## 道と町の支援を受け、 ホタテ養殖漁業はじまる

6月14日、上ノ国地区において本町初となるホタテ養殖が開始されました。

現在、ひやま漁協上ノ国支所では、北海道の「日本海漁業振興緊急対策事業」の補助事業を活用し、漁業収益の安定を図るために各種養殖漁業に注力し、新たにホタテ養殖に取り組むこととなりました。今回ホタテ養殖を行うのは大崎地区の若狭章雄さんで、これまでには主にはえ縄漁業を営んでいましたが、近年の漁業資源減少などから、安定した収益を見込むことができるホタテ養殖に挑戦することとなりました。

これまでの養殖では、アワビ養殖やホツケ養殖が中心で、これらは一定の収益を上げていることから、次世代の養殖漁業として本町の柱となっていくことが期待されます。



## もしもの時の為に

6月12日、上ノ国町消防団の全9分団と婦人防火クラブが参加する総合演習が、役場前駐車場にて実施されました。

演習は隊列を維持しながらの行進や放水、分団同士でのホース連結など、火災現場にて必要となる技術訓練を中心に、約3時間行われ、参加した団員は真剣な表情で演習に臨んでいました。

また、演習会場周囲には団員の家族なども見学に訪れており、そうした視線の影響からか、団員一人ひとりの動作にいつも以上の張り切りが感じられた訓練となりました。

## 校庭やバス停をより綺麗に！ 建設会社による社会貢献活動

5月から6月中旬にかけて、町内外の建設業者により、小学校やバス停の無償整備が行われました。毎年、慈善事業として京谷建設工業(株)(字中須田)が河北小学校のグラウンド整備などを行ってきましたが、今年は湧き水が涸れ、老朽化した人工池を花壇として作り替える作業が行われました。

また、湯ノ岱バス停では、(株)本組(函館市)、(株)道南土木(江差町)、(株)豊成建設(字北村)の3社が協力して、利用者から雨天時のぬかるみなどを指摘されて旧湯ノ岱駅前バス旋回場を整地し、老朽化していた花壇も整備しました。これらの活動は全て無償の社会貢献活動として行われ、学校の児童やバスの利用者から大変喜ばれているとのことでした。



## 育つ稲見て食を学ぶ

上ノ国小学校5・6年生による田植え授業が、5月27日と6月10日の2回にわたって行われ、5・6年生合わせて約80名が参加しました。

この授業は、児童たちに食べ物を作ることを大変さや出来る仕組みを教えようとする食育の一環で行われているものです。

場所は北村地区目名の水田で、町内で農業を営む菊池和雄さん(字北村)と鈴木亨さん(字新村)が水田を提供しました。

児童たちは、少し肌寒い天気にもかかわらず素足で田植えを行い、「手持ちの苗がなくなると『苗をくださいー！』と畦道にいる先生や農業者の方に呼びかけ、積極的に植えていました。